

# 自然由来のカーボнкуレジット創出・販売事業

---

Green Carbon株式会社

Ver. 2026

---

## 生命の力で、地球を救う

Save the earth with the power of nature

地球規模での温暖化により、台風・大雨・洪水により、日々、人間・動物・植物（動植物）が住みにくい世界が作られています。技術革新により、歯止めをかけようとしても、未だ解決策が見えない大きな問題に僕たちはもともと持っている生命の力を最大限に活用することで、もとあった住みやすい地球に戻していきたいと考えています。人だけが住みやすい世界ではなく、世界中のあらゆる生命が住みやすく共存し合う世界を創造していきたいと思います。





## ■ 会社概要

会社名 : Green Carbon株式会社 (Green Carbon,inc.)

本社 : 千代田区麹町2-3-2 半蔵門PREX North 9F

代表者 : 代表取締役 大北 潤

設立 : 2019年12月

営業所 : 北陸・東北・北海道・秋田・仙台

支社 : オーストラリア、フィリピン、ベトナム、(タイ、インド)

資本金 : 5億3,029万円

事業概要 : クレジット創出・販売事業、農業関連事業、関連環境事業  
その他関連する事業及びコンサルティング

主要株主 : 住信SBIネット銀行株式会社、SMBCベンチャーキャピタル株式会社  
三菱UFJキャピタル株式会社、芙蓉総合リース株式会社  
三菱UFJ信託銀行株式会社 など

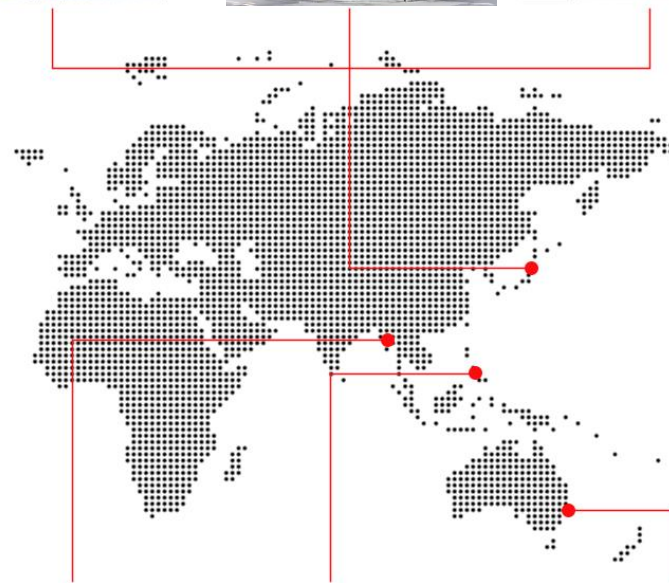
北陸営業所



東京営業所



北海道営業所



ベトナム営業所



フィリピン営業所

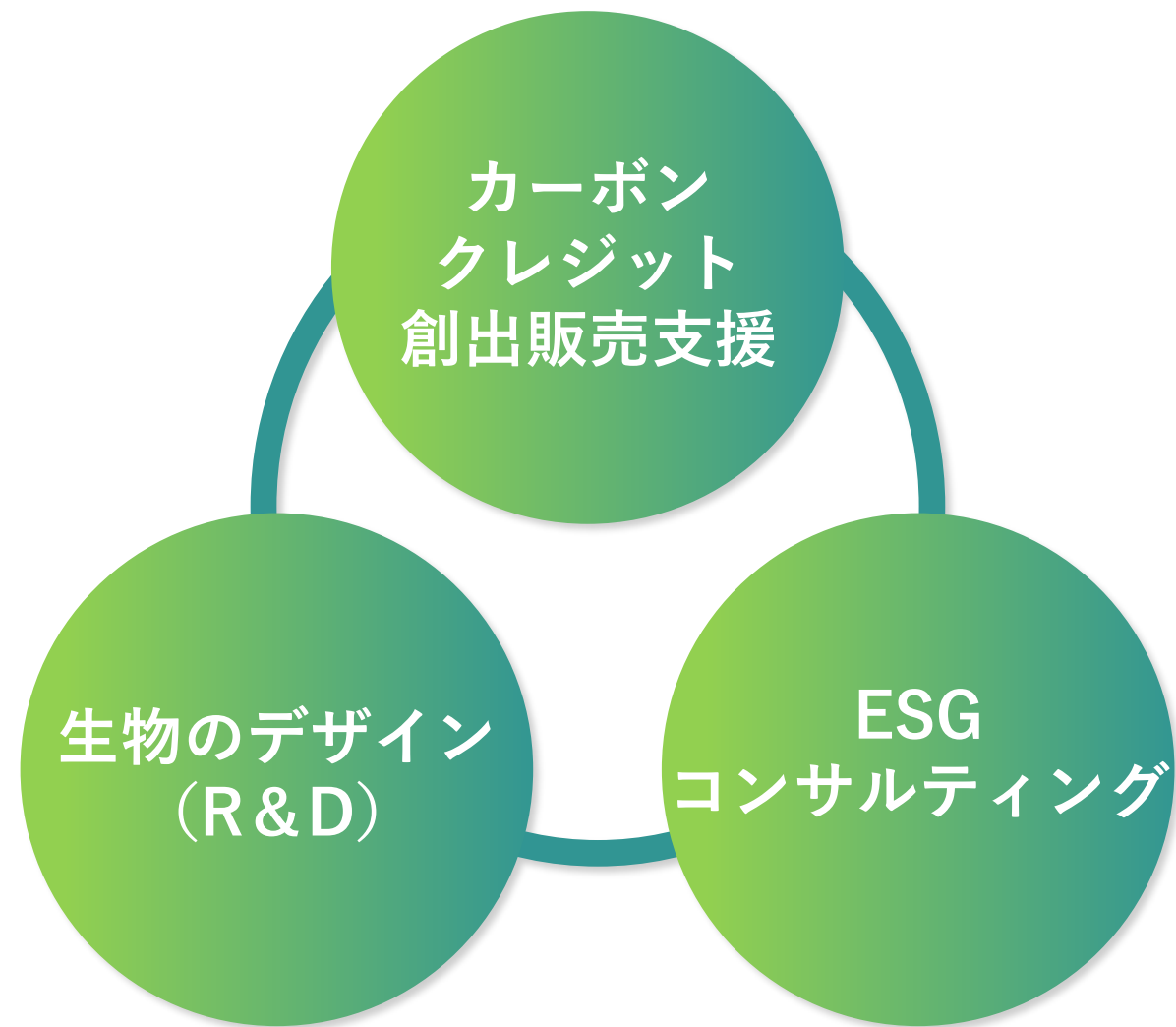


オーストラリア営業所



## 事業内容

国内外でカーボンのクレジットの創出・販売を支援しており、水田・森林保全・バイオ炭・牛のゲップ削減・カーボンファーム・マングローブ・植林プロジェクトでクレジットを創出。  
また、生物（植物・微生物）の研究を国内外の大学・研究機関と実施。  
その他にも上場企業向けにESGコンサルティング事業を展開



## ■ 事業展開領域

### Vietnam

水田/バイオ炭/マングローブ



### India

水田/バイオ炭



### Japan

水田/バイオ炭/酪農/森林



### Philippines

水田/バイオ炭/マングローブ/森林再生



### Thailand

水田/バイオ炭



### Cambodia

水田/バイオ炭



### Malaysia

バイオ炭



### Indonesia

水田



### Australia

農地貯留



10カ国  
以上

## ■ 創出可能J-クレジット



**水田  
J-クレジット**

認証機関：J-クレジット  
創出クレジット：6,220t  
(※2023年度実績)  
創出クレジット：100,000t  
(※2024年度創出予定)



**森林  
J-クレジット**

認証機関：J-クレジット  
創出クレジット：約600t  
(予定)  
※プロジェクト登録完了済



**バイオ炭  
J-クレジット**

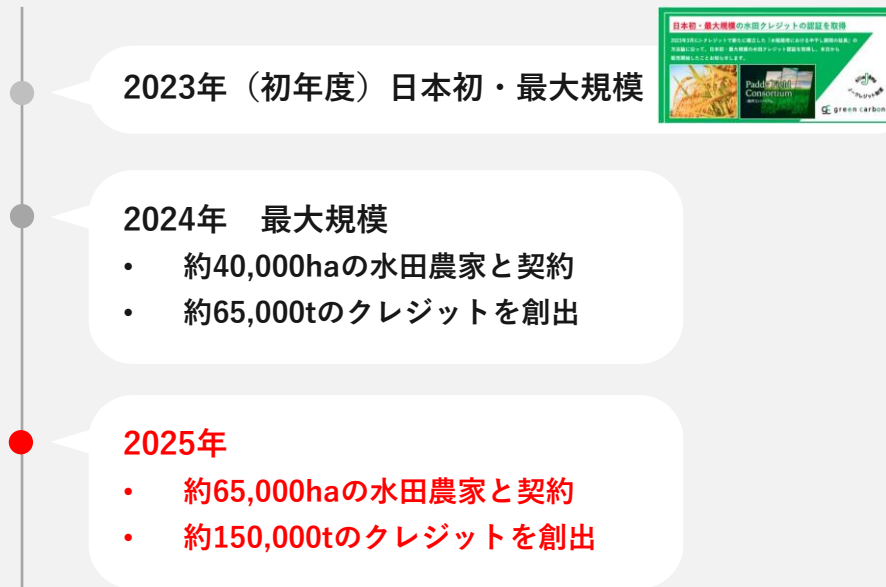
認証機関：J-クレジット  
創出クレジット：約100t  
(予定)  
※プロジェクト登録完了済



**家畜の糞尿処理  
J-クレジット**

認証機関：J-クレジット  
創出クレジット：約7,000t  
(予定)  
※プロジェクト登録完了済

### 水田 J-クレジット




2023年（初年度）日本初・最大規模

2024年 最大規模

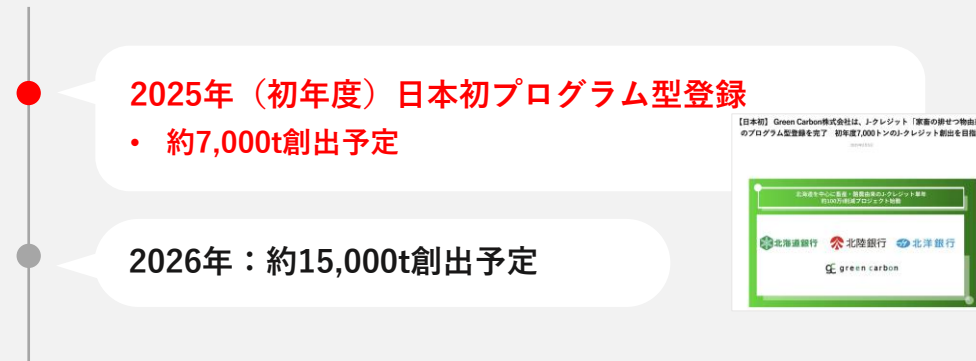
- 約40,000haの水田農家と契約
- 約65,000tのクレジットを創出

2025年

- 約65,000haの水田農家と契約
- 約150,000tのクレジットを創出




### 家畜の糞尿処理 J-クレジット



2025年（初年度）日本初プログラム型登録

- 約7,000t創出予定

2026年：約15,000t創出予定



### 森林J-クレジット



2025年

- 約5,000t規模のプロジェクトを進行中



## ■ Topics : 受賞採択実績 & 自治体連携事例

### 受賞・採択実績



- ◆ J-starxシンガポールインドネシアコース採択 2023年
- ◆ 東京都主催グリーンスタートアッププログラム採択 2023年
- ◆ サステナブルファイナンス大賞大賞受賞 2023年
- ◆ Get in the ring osakaライト級チャンピオン 2023年
- ◆ MUFG ICJ Food×Tech 最多4賞受賞 2024年
- ◆ 埼玉県深谷市主催Deep Valey Agritech Award 最優秀賞受賞 2023年
- ◆ 東京都主催Social X Accelerationファイナリスト 2024年
- ◆ FRONTIER TOKYO for start up ファイナリスト 2024年
- ◆ みずほFG×Google Cloud共催 Innovation Todayファイナリスト 2024年
- ◆ 奈良県オープンイノベーション連携採択 2024年
- ◆ J-starxオーストラリアコース採択 2025年
- ◆ NEXs Tokyo 連携事業創出プログラム 第8期の受講企業採択 2025年
- ◆ 第12回Rise Up Festa選出 2025年 etc

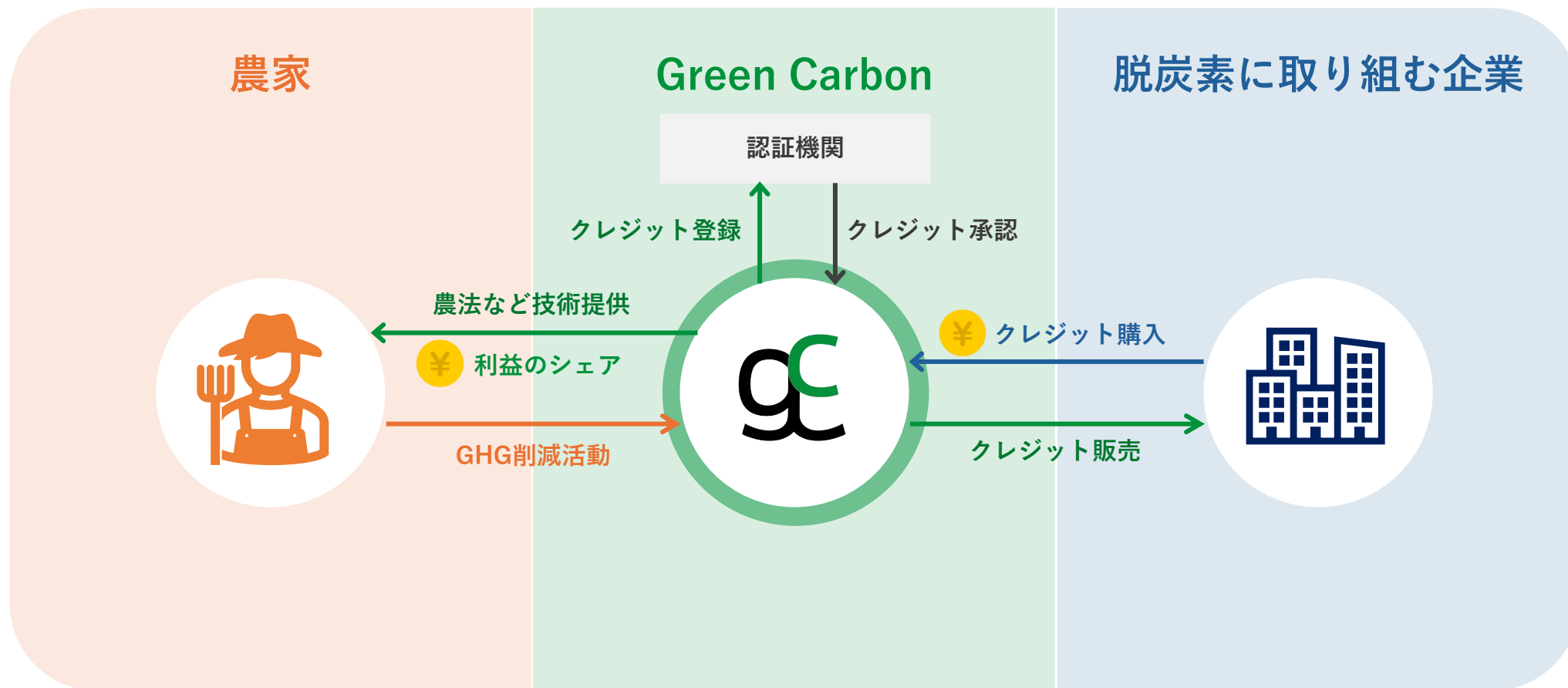
### 自治体連携事例



- ◆ 那須塩原市（栃木県）2022年
- ◆ 名護市（沖縄県）2023年
- ◆ 深谷市（埼玉県）2023年
- ◆ 愛媛県 2024年
- ◆ 奈良県 2024年
- ◆ ホクレン農業協同組合連合会（北海道）2024年
- ◆ 東京都 2024年
- ◆ 浜松市（静岡県）2024年
- ◆ 香取市（千葉県）2024年
- ◆ 天栄村（福島県）2025年
- ◆ 豊田市（愛知県）2025年 etc

## ■ カーボンクレジットのビジネスモデル（販売型）

GHG削減プロジェクトを世界中の農地で組成し、クレジットを需要企業へ販売  
クレジット開発ノウハウと資金を提供し、クレジット販売から発生した利益を農家とシェアする





## ■ 水田（中干し期間延長） ※併せて環境配慮米の販売も可能

### 環境課題

世界のメタンガス排出量の約10%が水田由来といわれている  
水田から排出されるメタンガスは、二酸化炭素の約25-28倍もの温室効果を持つとされている

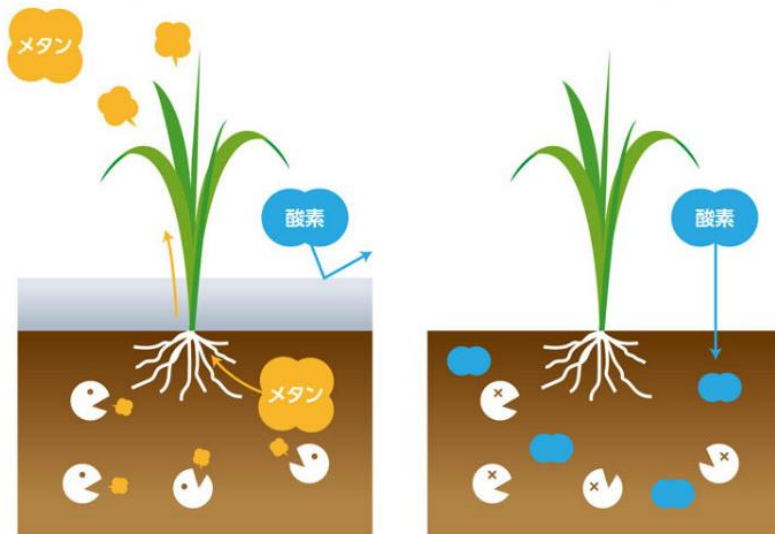
### 農家課題



収入が低い  
米の価格高騰により取引先の確保が困難

### 中干し期間延長を用いた解決

水土壤（水を満たした状態）の場合、酸化が進みメタン生成菌からメタンガスが発生する  
**落水期間（中干期間）を設ける**ことでメタンガスの発生を抑制  
収穫された米は「環境配慮米」としてブランディングが可能、米の販売価格向上に繋がられる

[ホーム](#)[J-クレジット制度について](#)[申請手続](#)[登録・認証情報](#)[クレジット売買](#)[ク](#)

### 農業

方法論NO.	方法論	概要版	Ver.	更新日
AG-001 NEW	家畜へのアミノ酸バランス改善飼料の給餌		5.0	2025/08/08
AG-002	家畜排せつ物管理方法の変更		3.0	2025/02/25
AG-003	茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥		3.2	2025/02/25
AG-004	バイオ炭の農地施用		2.3	2025/02/25
AG-005	水稻栽培における中干し期間の延長		3.3	2025/03/31
AG-006	肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌	—	1.3	2025/02/25

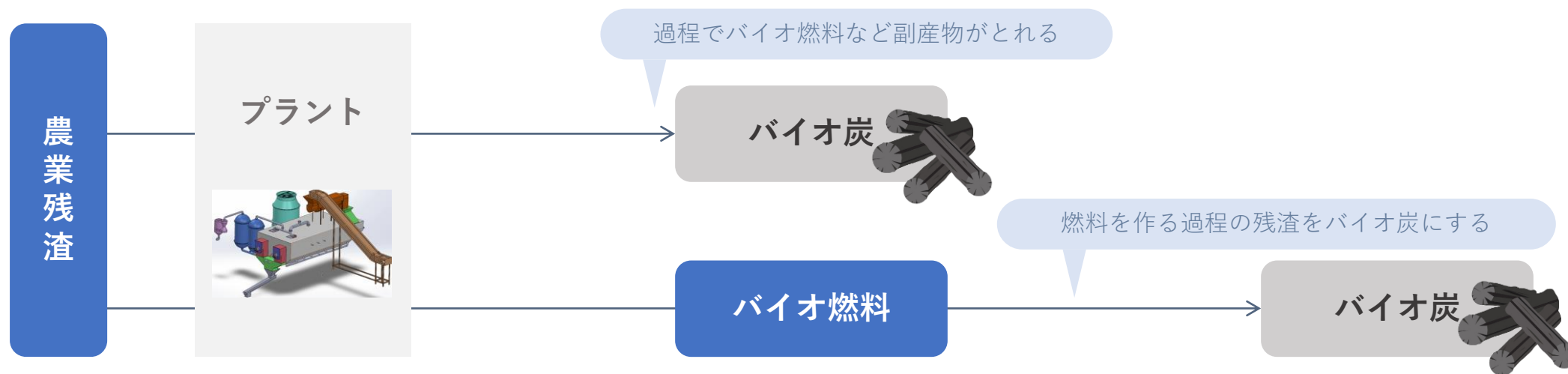
## ■ バイオ炭・バイオ燃料生成

### 環境課題

籾殻、綿花といった農業残渣を処理するために焼却するとCO2が発生する

### バイオ炭の生成

バイオ炭とは：木材や竹、家畜ふん尿、もみ殻、綿花などを 350℃超の温度で加熱して生成する炭  
土壌に施用することで、バイオマス中の炭素を長期間安定して土壌に貯留し、大気中の炭素濃度を下げることができるほか  
pH調整や微生物の活性など土壌改良へも活用可能



## ■ 酪農 | 強制発酵など家畜排せつ物管理方法の変更 (AG-002)

### 環境課題

畜産分野の中でも特に牛から出る排出量 (CH<sub>4</sub>やN<sub>2</sub>O\*) は課題となっており、年間約47億t-CO<sub>2</sub>の排出は中国、アメリカに次ぐ、国レベルの排出源となっている

### 農家課題



収入が低い・飼料価格高騰による経営状況の悪化  
糞尿発酵には管理コストと時間がかかる、糞尿処理の際の悪臭・健康被害

### 家畜排せつ物管理方法の変更 (AG-002)

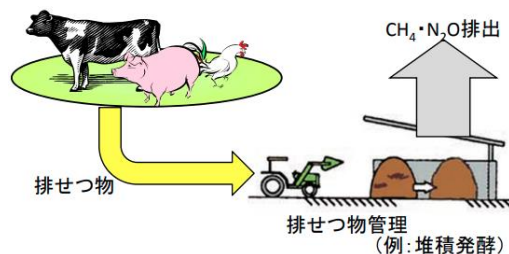
家畜の排せつ物の強制発酵の設備導入などにより発酵の速度を上げることで、CH<sub>4</sub>やN<sub>2</sub>Oを削減。発酵物は堆肥や敷料として使用する

#### 堆積発酵

約60%の農家が堆積発酵で管理。約半年かけて発酵させる



多大な管理コスト (1,000時間/年)、悪臭問題



#### 強制発酵 \*一例

現状導入ができていない農家は5%。数日で発酵可能



処理速度アップ・管理コスト削減  
・悪臭問題解決・敷料購入コスト削減



より温室効果ガス排出量の少ない排せつ物管理方法 (例: 強制発酵)

#### \*導入設備例

##### 強制発酵施設



##### バイオガスプラント



※いくつかの方法が存在



gc green carbon